

平成25年度 第1回特別研修会/CISJ

特別講演「ライフステージを考えたインプラント治療」

講師：武田孝之先生（東京都千代田区開業）

会員発表

「Graft less による審美修復の基準について」 若井広明先生

「固定性インプラント補綴からインプラントオーバーデンチャーへの設計変更必要度～在宅診療、要介護をふまえて～」 田中譲治先生

日時：平成25年3月17日（日）

場所：秋葉原UDX



福西 雅史（神奈川県）

インプラント治療後の長期安定性が、メディアを始め、世間一般に問われる時代となった。一方で、日本社会全体の高齢化に伴い、インプラントの活用法や、メンテナンスの手法も、多様になりつつある。

3月17日に秋葉UDXにて、平成25年度第1回特別研修会が開催された。

今回は、「ライフステージを考えたインプラント治療」という演題で、日本を代表するインプラントロジストの一人ある、武田孝之先生にご講演頂いた。

武田先生は、補綴学的観点より、欠損補綴の目的とインプラントの適用として、以下のように述べた。

①成年（～50歳代）：少数歯欠損部の回復、周囲組織への負担軽減

②初老～高齢者（50～65歳）：多数歯欠損への対応、咬合崩壊の防止、強固な咬合支持の獲得

③高齢者～超高齢者（65歳以上）：無歯顎・少数歯残存への対応、口腔機能の回復

また、欠損歯列を診断する際、Eichner・Kennedy・Cummerの分類、宮地の咬合三角、欠損ダイヤ、歯の生涯図等の診断基準を持ち、特に、欠損補綴を考慮する上で、以下のことの重要性を述べた。

①欠損補綴のリスクとパターンとスピードを考える

②欠損に至った原因を推測して、対策を考える

また、下顎に比べ、上顎の歯の方が、喪失のリスクが高く、上減の歯列という時期に入ると、歯の喪失の加速度が一気に増すと述べた。上減の歯列と



は、現存歯数が20から22歯、咬合支持が6から8カ所、上下顎の歯数の差が4歯以上で、多くの場合に50から60歳代とされている。上減の歯列への対応策として、臼歯部の咬合再建と前歯部の補強を基本に考えるが、具体的には、H型義歯からA型義歯への変更、インプラントによる臼歯部の強固な咬合支持を獲得・維持することが、歯の喪失スピードを抑制するために重要であると述べた。

次に、若井広明先生に、「Graft less による審美修復の基準について」という演題でご講演頂いた。

若井先生は、特に前歯におけるインプラントによる審美修復の際に、歯肉や既存骨の状態、インプラ

ントの埋入深度、ポジション等を考慮することや、より患者の負担を小さく、審美的に良好な結果を得るために、それぞれのインプラントメーカーの特徴を把握して、選択することの重要性を述べた。

次に、田中譲治先生に、「固定性インプラント補綴からインプラントオーバーデンチャーへの設計変更必要度～在宅診療、要介護をふまえて～」という演題でご講演頂いた。

田中先生は、患者の高齢化に伴い、手の不自由・要介護・理解度不足・認知症などにより、固定性インプラント補綴では、清掃が難しく、メンテナンスが困難になった場合は、取り扱い・清掃の簡便さ





等を考え、インプラントオーバーデンチャーへの設計変更も肝要であると述べた。

具体的な判断基準として、以下の項目を挙げ、それぞれ、1~5点でカウントして、その合計で、設計変更必要度を測ると述べた。

- ①口腔清掃(舌や口腔周囲を含む)
- ②顎堤吸取度
- ③手足の不自由さ
- ④口腔機能(含嗽・嚥下等)
- ⑤認知・理解度力不足
- ⑥日常生活動作(ADL:activities of daily living)

最後に、武田先生に、「審美領域におけるインプラント補綴長期経過から考える審美的インプラント治療の鍵」という演題にて、ご講演頂いた。

審美性を獲得するために必要な要素として、唇側・口蓋側歯槽骨傾斜から三角形をイメージして、その範囲内にインプラントを埋入することの重要性を述べた。また、抜歯即時埋入のポイントとして、抜歯は口蓋側より慎重に行う・肉芽を徹底的に搔爬する・縫合はしない・骨補填剤は β -TCPを細粒にして使用・埋入位置は口蓋側のラインに合わせる・埋入深度は最終的唇側歯肉より4mm等、と述べた。

今回の講演で、武田先生は、人工股関節は15年程度で再交換を行っていることを例に挙げ、インプラントが永久に持つと説明しているのは危険だと、警鐘を鳴らした。

その上で、患者のセルフケアの向上、徹底が必要であり、メンテナンス依存型の患者を作らないこと、メンテナンスの際には咬合状態もよく診ること、口腔内科医として患者とともに長く歩んでいくこと、インプラントの再治療や活用方法等の重要性を述べた。

私は、武田先生の講演の通り、自分の医院や、自分の患者との関係を、将来的に、どのようにソフトランディングしていくか、深く考え、そして、インプラント治療における、欠損補綴の考え方の重要性を再認識する、大変貴重な機会を得ることができた。

明日からの臨床に生かし、自分の患者の将来を考え、真摯に向き合っていきたい。

お知らせ

一般社団法人

日本インプラント臨床研究会

創立40周年記念事業

平成26年4月19日(土)

一般社団法人 日本インプラント臨床研究会
創立40周年祝賀会(リッツカールトン)

平成26年4月19日(土)・20日(日)

創立40周年記念大会

(全員発表研修会、第26回AOIA、デンツブライシンポジウム)
海外講師予定 ヘンリー・サローマ他(東京ミッドタウン)